

齊藤工氏プロデュース 第一回移動映画館 cinema bird を石巻にて実施 日本ロレアルによる継続的な支援で来年以降も実施決定

日本ロレアル株式会社
2014年11月29日

世界最大の化粧品会社ロレアルグループの日本法人である日本ロレアル株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:クラウド・ファスベンダー)と株式会社ブルーベアハウス(東京都渋谷区、代表取締役:澁谷 京子)は齊藤工氏をプロデューサーとして、移動映画館 cinema bird プロジェクトを発足いたしました。第一回目として、11月29日に石巻の日本ロレアルが建設したコミュニティカフェ HANA 荘(はなそう)にて実施し、来年以降も実施予定です。

日本ロレアルは、2011年の東日本大震災以降、復興支援活動の一環として継続的にコミュニティ再生支援を実施しています。2011年11月には、地域の人たちが集う場所、コミュニティカフェ“HANA 荘”(敷地:330 m²、建物:80 m² 住所:鹿妻南 1-9)を建設いたしました。また、2013年からは石巻の女性の自立を支援する“Eyes for Future by ランコム”を開講し、2014年までの2年間で約60名の卒業生を輩出。2014年度の修了式に、受講生からの要望により、齊藤工氏にビデオメッセージいただきました。

コミュニティ支援を実施している日本ロレアルは、齊藤工氏の映画館がない場所で、同じ空間を共有する大切さを、移動映画館を通じて知ってほしいという思いに賛同し、来年以降も cinema bird を支援いたします。

来年以降は、日本の各地方にて開催していく予定です。

【移動映画館 cinema bird 概要】

- ✓ 観客は開催場所の地元の方に限定
- ✓ 開催場所の地域のニーズや要望を踏まえ、齊藤工氏によるセレクションの映画を上映
- ✓ 齊藤工氏による映画の解説、エピソードなどの紹介

【齊藤工氏からのメッセージ】

昨今の日本における映画人口が減少しています。取り分け、地方都市については上映劇場(主にミニシアター)が減少の一途を辿っています。日本の映画観客数は1958年から1960年に掛けて年間10億人を超えていました。総人口が1億人に満たない時代で、一人が年間に10回以上映画館に足を運んだことになります。映画館数も7000を越え、小さな町にも2~3館はあったものでした。近年の映画観客数は約1億5000万人(現在劇場鑑賞数)は平均一人約一作品、映画館数は約3000館とされています。

このような状況の中、映画館で育った私としては、劇場体験をしないまま大人になって行く子供達に、是非とも映画体験をして欲しい。同時に、劇場の無い地域の方々に、空間を他人と共有する娯楽を運びたい。手探りではありますが、一映画人としても、多少なりとも映画産業に貢献出来ればと思い、【cinema bird】と言う本企画を立ち上げた次第です。小さな島々を含め、日本中で映画館の無い町が増えています。

そんな場所へ、鳥の様に自由に羽ばたき、毎年(若しくは年2回)映画の出前が出来ればと考えています。

齊藤工 プロフィール

1981年8月22日生まれ。東京都出身。

15歳の頃からモデルとして活動、2001年映画「時の香り～リメンバー・ミー～」で俳優デビュー。ドラマ、映画、CM、映画紹介番組ナビゲーター、雑誌連載など活動は多岐にわたる。

俳優としても今年にはドラマ「昼顔～平日午後3時の恋人たち～」（フジテレビ）、「ダークスーツ」（NHK）、映画「欲動」、「西遊記～はじまりのはじまり～」（吹替）などの出演の他、短編映画「半分ノ世界」、「 balansier」を発表し制作にも積極的に携わった。



日本ロレアルについて (<http://www.nihon-loreal.jp/corp/>)

1963年から事業を開始し、1996年に日本法人である日本ロレアル株式会社が設立されました。2,300人の従業員を擁し、化粧品の輸入、製造、販売、マーケティングを行っています。現在、ランコム、ロレアル パリ、メイベリン ニューヨークなど22のブランドを展開しています。

日本ロレアルの復興支援について

CSRの活動の一環として、東日本大震災後、全社をあげて長期的に復興支援に取り組むことを目的に、東北復興支援プログラムを推進しています。コミュニティカフェ「HANA 荘」のほか、被災地を巡回する「ビューティーバス」（移動式美容室）によるヘアカットなどの活動を実施しています。また、各ブランドの売上の一部をパートナー NGO と協力のもと、様々な復興支援活動に展開しています。